

第10回 深谷市環境エコ川柳コンテスト審査結果

今年度は節目の第10回となり、新たに小中学生部門が新設されました。応募数は、小中学生部門は86人、140句、一般部門は62人、110句で過去最高となりました。結果は下記のとおりです。

記

小中学生部門

最優秀賞

- ごみゼロで ごみがゼロだと うれしいな (近藤らむ)
- (評) 子供らしさが表現されていて好感を持ちました。5, 7, 5の定型がしっかり守られていてすばらしい作品になりました。

優秀賞

- 1) ○ 日曜日 エアコンだって 日曜日 (福島詩依奈)
- (評) この句のようにリフレインを使つての作句は成功する率が低い。しかしこの句は見事にそれを覆した。
- 2) ○ みんながね 一個拾うと 一億個 (チップLOVE)
- (評) この句は何を拾っていると言も言っていないが、ゴミだと言うことが容易に分かります。1人1人が1つずつ拾えば一億になる。小さな積み重ねが大きな力となることを訴えています、目のつけどころが良い。
- 3) ○ クーラーは 28度が ぴったりだ (青柳柚那)
- (評) 具体的に28度と言ったところが良い。確かに28度は高からず低からずの適温です。

一般部門

特 選

- 断捨離が 下手で女房に 褒められる (根岸稔)

(評) 断捨離と言うことばは辞書に載っていませんが、現代では高齢者が身辺整理をすることで普通に使われています。句の内容は下手で褒められると言うのですから、古いものを再利用していることを意味しています。これもエコへの貢献です。

準特選

- 1) ○ 蝉兜 とんぼも同居 夏休み (高田進)

(評) 中7の「同居」が一句を際立たせています。蝉やとんぼがいることは自然を大切にしていることです。これもエコの一つです。

- 2) ○ エコ活で 心も地球も 潤そう (大澤萌佳)

(評) まず良いことは上五の「エコ活」ということば、過去10年間このことばを使った人はいません。もう一つは「潤すぞ」と決意を表していることです。

佳 作

- 1) ○ マイバッグ 地球の荷物 軽くする (ふうたん)

(評) 中7から下5の流れが良い。特に「軽くする」がエコへの意欲を感じます。

- 2) ○ にがうりの みどりカーテン レシピ増え (河原田トヨ子)

(評) 作者は中7に苦勞したのではないかと思います。「レシピ」ということば選びも良かった。惜しいのは「にがうり」を漢字の「苦瓜」にするのにがうりの風味も味あえます。

- 3) ○ 勧めたい 腹八分目の 冷蔵庫 (田部井光男)

(評) この句は下5の引用がユニーク。川柳は他の人が目につけないところに着目することが大切です。

- 4) ○ ゴミ拾い さわやかな風 吹き抜ける (横瀬栞奈)
(評) 全体的にまとまっている句。ごみ拾いをさわやかな風に繋げたところが特によかった。
- 5) ○ 花の町 エコの窓辺に 黄花咲く (金井金蔵)
(評) エコがテーマなのに、このように詩情豊かに詠いあげたのが手柄。この句をワンランクアップさせるためには、花の名前を具体的に書くとすばらしい句になった。
- 6) ○ 陽光に ほっと息吐く 屋根のエコ (小暮利幸)
(評) この句は太陽熱を詠んだ句。太陽の巨大さを下5の「屋根のエコ」が補ってくれた。
- 7) ○ 親が子へ 伝えるムダの ない暮し (天野敏子)
(評) 上句が標語的になってしまいそうなところを、下句が救ってくれました。このような叙情句が尊れた時もありました。時代の流れでしょうか、最近はインパクトの強い句が好まれるようになってきました。しかし私も作者と同意見です。
- 8) ○ 夏の涼 ゴーヤの下で 飲むビール (根岸健二)
(評) この句は夏のひとときをくり抜いた句。作者の生活感が出ていて共感できます。
- 9) ○ 我が家にも 日差しさえぎる 夏野菜 (横瀬初枝)
(評) 手慣れた手法でそつのない句。「日差しさえぎる」が作者のエコへの思い。
- 10) ○ お日様が 沸かしてくれた 湯に浸る (杉渕綾子)
(評) 昔はこんな情景がどこにでも見られました。中7の「沸かしてくれた」が川柳らしさを出していて好感をもちました。

- 11) ○ 蛇口まで 遠い旅路を たどる水 (小林清)
(評) この一句の中に「エコ」を思わせることばは見当たりません。こじつけて言うなら「蛇口」でしょうか。節水を呼びかけることばとして、最後に水が出てきます。ロマンを誘う秀句です。
- 12) ○ ありがとう 緑のおかげ すずしいな (ゆかり)
(評) このような句はややもすると標語的になってしまいます。これを救ったのが下5の「すずしいな」の「な」です。
- 13) ○ 打ち水を カミナリ様が のぞきこむ (陽)
(評) 打ち水もカミナリも夏の季語で、俳句では季重ねと言いタブーとされています。しかし、川柳はこれもOKです。
- 14) ○ 早寝して 電気消したと ご満悦 (茶々丸)
(評) 自己主張の強い句に見えますが、川柳の滑稽さが出ていて捨て難い句となった。
- 15) ○ トレペ芯 集め小さな エコライフ (ふーちゃん)
(評) 上5の「トレペ芯」はすぐにはピンと来なかったのですが、一度没としました。しかしよくよく調べると、トイレットペーパーの芯だということが分かりました。川柳は誰にでも分かることばで分り易く作ることが基本です。作句する時の参考にしてください。

選者吟

- エコ家族 空気の澄んだ 町に住み 酒井 青二
○ 限りある 資源と共に 生きてゆく 手島 廣志